

道路維持補修等の確保を要請

● 経済建設常任委員会

付託事件
一般会計（農林業費、土木費、災害復旧費）、中央簡水会計、簡水会計

Q 今後、山間地の非農地証明が増えてくると思うが、その対応はどうか。
A 地籍調査が済んだ地区には非農地証明は行っていない。今後、優良農地・補助整備地区以外の山間農地は、山林化もやむを得ないのではないかと農業委員会事務局では考えている。

Q 雨よけハウスの効果と、今後の指導方針は。
A 梅雨時期の雨対策に効果があり、生産量も増えている。トマトの生産等の指導をして欲しいという要望もある。今後、普及センターと

年間野菜の栽培表を作り指導していきたい。

Q 紫尾キャンプ場と農産物加工施設の利用実績は。
A キャンプ場の利用実績は1291人で、使用料は126万8045円であった。昨年、紫尾温泉の改築により利用が減少したが、キャンプ場の利用者などにハガキ等で周知を行い、利用促進に努めた。

Q 収入未済額に対する対策はどうか。
A 結果的にこうなった。今後の対策は、納税誓約書を取れば時効が中断することになるが、時効が中断しても納められない人には意味がないことにもなる。

加工施設は、利用者数と件数は減っているが、使用料は前年対比で11%増えている。また、収支のバランスを



改築された紫尾温泉の利用と併せ、隣接するキャンプ場も利用が期待される

Q 水道料金の不納欠損処分は何人で、どのような状況で処分をしたか。
A また、景気低迷の影響で今後滞納が増える

図るうえで、本年3月に料金改定を行った。

ことも予想されるが、その対応は。

Q 平成9年度分の8件で、2万4360円です。ほとんどが住所不定であり、やむを得ず処分したものです。
A 景気低迷で徴収が難しいという現状がある。水道運営委員会でも協議したが、生命に係わることであり、納得するだけ水は止めずに徴収努力により不納欠損

健康ふれあい広場への補助金は、営業拡大に役立っているのか、さらに、14年度の収支は改善方向にあるのか。
A 14年度の決算状況は、収入が1億619万7千円、支出が1億3395万7千円で、これに補助金額2815万8千円を加えて、単年度では39万7054円のプラスである。14年度末の損益はマイナス

の192万9677円です。14年度末の処分利益はマイナスの153万2623円となる。

Q 図書の購入にについては、予算増に配慮してきしたが、図書の利用率等の状況はどうか。
A 図書システムの導入で、学校の図書・中央公民館の図書診断をし、古い本は廃棄しているの1人当たりの冊数は落ちてきている。

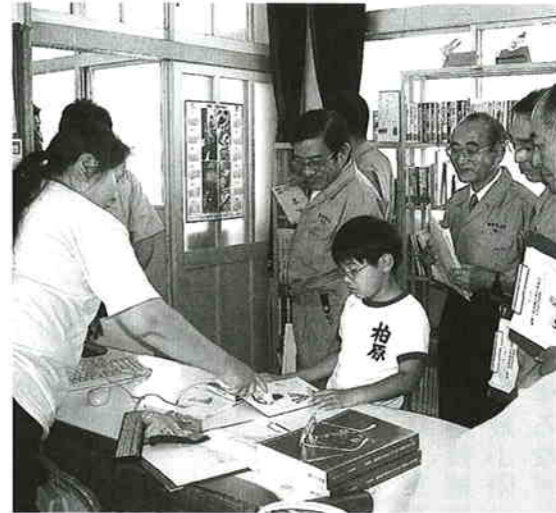
Q 図書システムによる新たな登録事務では、町内の児童生徒等はほとんど登録し、利用している反面、一般の方の利用が少ない。14年度の登録者の利用状況は1人当たり6.2冊である。12年度は3.2冊だったので多少伸びている。人口割では0.9冊と、1冊にも満たない状況である。

原材料費による側溝の蓋はどこに布設しているか。
A 昨年度は、京塚原線、大願寺堰ヶ迫線、市場種子田線等に布設している。危険箇所については町に在庫としてあるもので対応している。

徴収対策の充実を要請

● 総務常任委員会

付託事件
一般会計（議会費、総務費、民生費、衛生費、商工費、消防費、教育費）、国保会計、老保会計、介護保険会計



図書システムの導入で各小中学校、中央公民館図書室の蔵書検索が出来るようになった

財政指数の悪化が示すように、今後の財政運営の見通しと、基本的な財政運営について、その対策はどう考えているか。

Q 地方交付税も前年度比で7.2%の減、さらに15年度も6%の減と厳しい状況である。この中で、経常収支比率も非常に高くなっており、新規事業はできない状況である。また、合併時の持ちより基金額も標準財政規模の何%という形をとるので、この間、経常経

決算審議

質疑及び答弁の概要

Q 収入未済額に對する対策はどうか。
A 努力したが、結果的にこうなった。今後の対策は、納税誓約書を取れば時効が中断することになるが、時効が中断しても納められない人には意味がないことにもなる。

Q 健康ふれあい広場への補助金は、営業拡大に役立っているのか、さらに、14年度の収支は改善方向にあるのか。
A 14年度の決算状況は、収入が1億619万7千円、支出が1億3395万7千円で、これに補助金額2815万8千円を加えて、単年度では39万7054円のプラスである。14年度末の損益はマイナス

Q 図書の購入にについては、予算増に配慮してきしたが、図書の利用率等の状況はどうか。
A 図書システムの導入で、学校の図書・中央公民館の図書診断をし、古い本は廃棄しているの1人当たりの冊数は落ちてきている。